

月刊

# AMDA

国際協力

# Journal

6

JUNE

2005.6

(VOL.28 No.6)



# 復興支援はまだ始まったばかりです

## スマトラ沖地震・津波被災者支援活動

津波により医療従事者が多数亡くなったインドネシア・バンダアチェの医療充実のためにAMDAでは現地ザイナルアビディン病院とシャー・クアラ大学医学部、さらにスラウェシ島マカッサルのハサスディン大学との協力体制のもと人材育成プロジェクトとして医師、看護師の緊急医療教育プログラムを開始します。

また、バンダアチェの医学生を対象に、公衆衛生教育プログラムを開始し、災害後の感染症予防対策の強化をはかります。

スリランカでは緊急救援活動から引き続き、北部、東部、南部における広範囲にわたる小学校での保健衛生教育の強化・充実に努めています。

現地状況の報道は日に日に見られなくなりましたが、復興支援はまだこれからです。皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。



インドネシア 被災地



インドネシア AMDAの巡回診療



スリランカ 被災者への保健衛生教育

### 募金のお願い

郵便振替  
口座番号 01250-2-40709  
口座名 AMDA

※通信欄に「インド洋津波」とご明記ください。

書き損じハガキを集めています

書き損じハガキ、未使用ハガキ・切手を集めています。  
書き損じハガキは切手と交換し、通信費として使用しています。

AMDA

国際協力  
Journal

2005  
6月号

◇  
CONTENTS



スーダン：  
南ダルフル医療システム  
再建プロジェクト



◇AMDAのプロジェクト	2
◇アジアでのプロジェクト	4
◇アフリカでのプロジェクト	10
◇中南米でのプロジェクト	12
◇国内の活動	14
◇寄付者一覧	18

AMDA 長期プロジェクト実施国

みなさまの変わらぬご支援を  
お願いいたします。



【表紙の写真】スーダンプロジェクト

### Global Network of Partnership for Peace through Projects with Sogo-fujo Spirits under Local Initiative

2004年度は災害の年でした。国内外で大きな自然災害が発生し、大変多くの方が将来の夢や希望を胸に秘めたまま無念の死を遂げられました。この誌面をお借りして、今一度哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。AMDAは特に、新潟中越地震、そして2度にわたるスマトラ沖地震と、未曾有の津波により被災した地域へ緊急救援チームを派遣、医療保健活動を通して、被災者の方々に対し、相互扶助「困ったときはお互いさま」の理念と、我々友人の存在をメッセージとして伝え続けました。インドネシアやスリランカなどの被災地には、今なおチームのメンバーが駐在し、今後の復興へ向けた支援に着手しています。

2005年5月号までの記事をお読みにになった読者の多くは、すでにこうした活動の内容についてご存知だと思います。特にスマトラ沖地震と津波の被災地では、AMDAの旗の下、現地AMDA支部に加え、近隣諸国の支部やはるかカナダ支部などから医療関係者が参集しAMDA多国籍医師団を編成して、困難な状況の中、救援医療活動に携わりました。

こうした多国籍の人材による活動の裏側に、実はこの記事のタイトル（15文字の英単語）が隠されています。

AMDAを知る方のほとんどは、災害時の緊急救援を行なう団体としての印象をお持ちであると考えます。しかしそれは、緊急救援の実施体制をメンテナンスしている団体という側面があることもご理解いただきたいと思います。メンテナンス？と疑問に思われるかもしれません。メンテナンスには様々な方法がありますが、Networkが保たれるための大切な一要素として、Projectの実施を通じた信頼と尊敬の醸成が挙げられます。

事業を実施するという事は、様々な関係者と利害を共有することを意味します。人や組織は、困難や苦痛から逃げず、共に解決への道を模索することによって信頼関係を築き、互いの知恵を持ち寄り協力します。そしてその困難を乗り越えたとき、お互いに対する尊敬を獲得することができるのです。事業実施には一定の危険（リスク）が伴います。そして信頼関係に基づいてそのリスクを公平に負担し合う（シェアする）ことができるようになれば、お互いをパートナーと呼ぶことができるのではないのでしょうか。快樂だけを求める場合や、お互いが危険負担を避けようとする場合には、両者をパートナーと呼ぶことはできないでしょう。AMDAのネットワークは、このようなパートナーシップ論に基づいて結ばれています。

事業実施に伴う困難を共有することによって、パートナーが増えネットワークが広がります。そしてそのネットワークが存在し続けることによって、上記のような多国籍の救援チームができあがるのです。もちろん、人道支援や開発協力にかかわる事業を実施する過程で、困難や苦痛ばかりが支配することはありません。事業目標を達成する喜び、多様性の中で物事が進んでいく喜び、現地の人々と理解し合いながら学習することの喜びが無いわけではありません。そして前述したように、試練を乗り越えなければ信頼と尊敬が得られないとすると、それはある意味において新たな局面を作り出し、人間関係を深めるためのチャンスであり、したがって困難に直面することを恐れてはいけな、ということになります。

今月号では、各国で実施されている中長期事業を紹介させて頂きました。誌面スペースが限られていますので詳しくは記載できませんが、文字の裏側にある試練や喜怒哀楽に思いを馳せてお読みいただくことができれば幸いに存じます。事業に関わるスタッフが多くの困難を乗り越えることができるのも、会員の方々を始め日本の多くの支援者の方々のご理解とご支援があるからに他なりません。新年度に入り2ヶ月が経過しようとしています。質の高い事業成果を生み出す過程で、質の高いパートナーシップが生まれると考え、スタッフ一同、今年度の活動に取り組んでいきたいと考えております。

## 2004年度の緊急救援活動



イラン南東部大地震  
緊急救援活動  
(2003.12～)

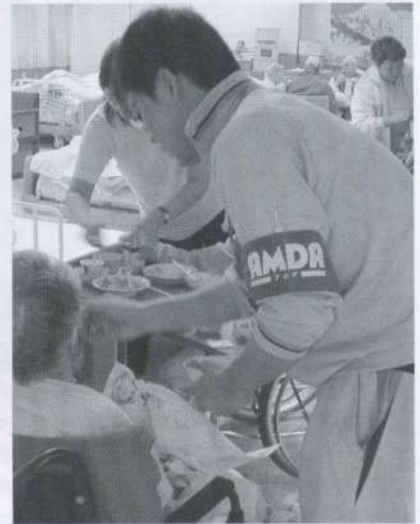


バングラデシュ洪水緊急救援活動 (2004.7～)



ハイチ共和国洪水緊急救援活動 (2004.5～)

新潟県中越地震災害  
弱者支援(2004.10～)



インド スマトラ沖地震・津波 (3カ国) 緊急救援活動 (2004.12～)



インドネシア スマトラ沖地震・津波 (3カ国) 緊急救援活動 (2004.12～)



スリランカ スマトラ沖地震・津波 (3カ国) 緊急救援活動 (2004.12～)



インドネシア ニアス島地震緊急救援活動 (2005.3～)

AMDA プロジェクト  
アジア

ミャンマー

◆母と子のプライマリーヘルスケアプロジェクト (2002年7月～2005年6月終了予定)



中部乾燥地帯に位置する3市(メティラ市、ニャンウー市、バコク市)において、母子の健康促進を目的とし、1)保健施設の拡充、2)地域医療従事者と住民との協働による巡回診療の実施、3)5歳以下の栄養不良幼児と母親を対象とした参加型栄養給食の実施、4)保健衛生教育、5)地域医療従事者、ボランティア、地域住民らに対する医療技術向上・能力開発等の研修、6)緊急および重症患者を対象とした遠隔地から医療施設への搬送支援、を行っている。本事業は、独立行政法人国際協力機構(JICA)と共同で実施している開発パートナー事業である。

◆マイクロクレジットプロジェクト (1998年～現在)



中部乾燥地帯に位置するメティラ市の29箇村において、女性を対象としたマイクロファイナンスを実施している。2週間に1度の返済日には、保健衛生の講習会を開催し、女性の所得向上に基礎保健教育を結びつけた支援を行っている。

◆ミャンマー県立総合病院小児病棟運営支援プロジェクト (1998年～現在)



同病院に対しては、これまで小児病棟の改修、医療機材の供与、医療スタッフの研修などの支援を実施してきた。現在も、小児病棟入院患者への食事提供支援、病棟への電力供給支援を行っている。本事業の多くは、株式会社サンマルクの各店舗設置募金箱への寄付金による支援を受け実施している。

◆コミュニティホームベースドケアプロジェクト (2004年～現在)



WFP(世界食糧計画)、在ミャンマー英国大使館との協力体制の下、HIV/エイズや結核などの慢性疾患を抱える患者とその家族に対して、総合的(医療的・看護的・社会的)なケアがコミュニティの中で適切に実施され、またその正しい方法論が浸透するよう、患者家庭訪問や食糧配布などの側面的な支援を行っている。

◆コーカン特区ラオカイ市貧困農村復興支援プロジェクト (2004年7月～現在)



同地区は中国国境に接した北シャン州にあり、かつてケシ栽培で栄えた地域である。2002年にケシの栽培が禁止されたことにより、代替作物の導入が進められたが、ケシに匹敵する収

## カンボジア

### ◆AMDA カンボジアクリニック：ACC

(1997年～現在)



首都プノンペン市内において、社会的弱者と呼ばれる人々(貧困層、障がいをもつ人々)への保健医療サービスの提供を目的としたクリニックを運営している。医師、看護師、検査技師、助産師ら13名のスタッフにより、1)一般外来(成人・小児)、2)エコー検査、3)小手術、4)各種検査、5)心電図検査、6)待合室での保健情報提供サービスを行っている。2004年度の総来所者数は、17,609名。そのうちの約15%は障がい者を支援する他のNGOなど、外部団体からの紹介を経た患者であった。

### ◆保健医療サービスと保健教育を通じたコミュニティ開発プロジェクト



(1999年～現在)

本事業の対象地、コンボンスプー州ブノムスルイ地区は、1996年までクメールルージュのゲリラが潜んでいたため開発が他地域より遅れ、カンボジアでも貧しい地域の1つとされている。同地区においてAMDAは、1999年から巡回診療による医療サービスを提供していたが、地域住民の健康が住民自身の手で(住民や公的機関の参加と協働により)増進されるよう、新しいアプローチを2003年度から採用した。主に、1)保健ボランティアの発掘と育成、2)公的一次医療機関との連携、3)地域自主保健活動の企画と推進、4)障がい者の家庭への訪問活動を行い、保健ボランティアと公的医療機関を中心とした持続性の高い地域保健活動の推進を目指している。

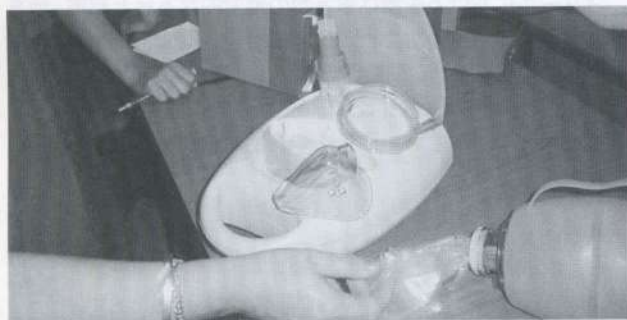
入は得られず、また2004年は、長引く雨により主要作物である米・とうもろこしが不作となり、「静かな食料危機」も進行している。このような状況下、WFP(世界食糧計画)および日本国外務省の支援(日本NGO支援無償資金協力)を得て、同特区のシャオカイ村区とマンロー村区の計30村で、社会的・身体的弱者を対象とした食料配給、学校給食、生活環境の改善を目的としたフードフォーワークを実施している。今年度は、農業や保健衛生分野の研修を実施するためのフードフォートレーニングの導入を目指していく。

### ◆コーカン特区プライマリーヘルスケアプロジェクト (2004年10月～現在)



JICA草の根パートナー事業として、同特区内に設置されている公立の国境地域診療所7ヶ所とその周辺の計14村で、住民、特に母子の健康状態の改善を目的とした活動を実施している。そのうちすでに11村で保健ボランティアが養成され、現在、栄養調査が行なわれている。今後、栄養不良・栄養失調児とその母親を対象にした栄養改善プログラムを行なっていく予定である。また公立医療施設7ヶ所に、医療器材と移動手段であるオートバイなどを供与し、固定診療活動の他にアウトリーチ活動も促進する。一方、同地域で使用されている中国語による保健衛生教育を実施するため、中国語版のIEC教材を作成している。さらに、安全な飲料水を確保するための給水施設やモデルトイレなどの建設も行なっている。

### ◆コーカン特区ラオカイ市民病院医療器材支援プロジェクト (2004年10月～現在)



ケシ栽培の禁止をうけて収入の道を絶たれた村民の多くは、ラオカイ市内の私立病院や私営のクリニックにおける医療費を払うことができず、公立病院であるラオカイ病院を利用するようになった。ラオカイ病院は10万人を抱えるラオカイ県の3次医療機関として重要な役割を果たしている。コーカン特区の住民は、国境や県境を越えた移動に制約が伴うケースが多く、コーカン地区内において高度な医療が提供される必要がある。ミャンマー政府が病棟を増築し、AMDAが医療器材を供与することにより、50床を構える地域の中核病院として機能することが期待されている。今年度はコーカン側の人民病院への支援も予定している。本事業は、日本国外務省の支援(日本NGO支援無償資金協力)を受け実施している。

## ネパール

### ◆ネパール子ども病院プロジェクト

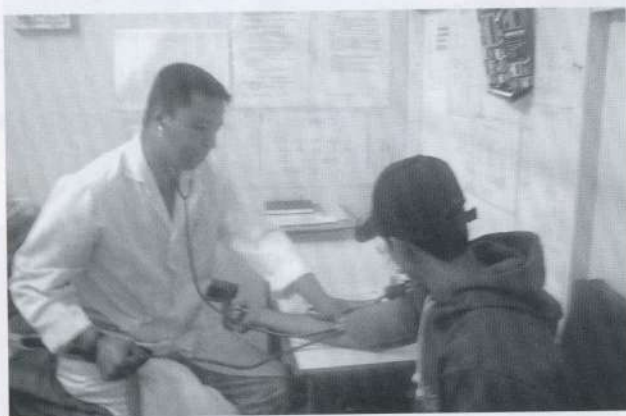
(1998年～現在)



ネパールで小児科と産婦人科を兼備した専門病院であり、カトマンズ以外で唯一の小児専門病院でもある。様々な保健医療人材育成機関とも連携し、産婦人科の実習病院としても大きな役割を果たしている。1998年に毎日新聞社およびその読者、阪神淡路大震災の被災者や様々な団体、その他大勢の支援者の方々からの善意のご寄付、そして建築家安藤忠雄氏のご協力を得て設立された。開院から6年以上経た現在、地元の地域住民のみならず、100～200キロ離れた地域に住む人々の来院も多い。今年度も、患者やその家族に対するより質の高い医療サービスを提供していきたい。

### ◆AMDA病院プロジェクト

(1992年～現在)



ブータン難民を対象とした二次医療施設として、ネパール東部のジャバ郡ダマック市に開設。1995年からは国連高等難民弁務官事務所 (UNHCR) から正式に委託され、「AMDA病院」という名称のもと事業を推進してきた。1996年には同国政府からも総合医療施設として承認され、難民に加え地域住民への医療サービスも開始した。患者数の増加に対応するため、昨年度AMDA保健人材育成センターの敷地内に病院施設を新築、移転を完了させた。

### ◆ブータン難民キャンプ内プライマリーヘルスケアプロジェクト (2001年～現在)



UNHCRの委託を受け、同国東部ジャバ郡ビルタモード市周辺にある7箇所の難民キャンプに居住するブータン難民に対して保健サービスを提供している。2001年に撤退した英国NGOから引き継いだ形で事業を開始した。主にキャンプ内における一次医療サービス、妊婦検診、予防接種、栄養補助食品の提供などのサービスを行っている。尚、一次医療レベルで対応できない患者については、二次医療サービスを提供するAMDA病院へ転送するシステムが確立している。

### ◆AMDA保健人材育成センタープロジェクト (1996年～現在)



ネパールにおける医療従事者数の絶対的な不足と都市・地方間の格差に対応するため、1996年に保健医療人材養成施設として開所。准看護師、地域保健衛生士、臨床検査助士の3コースを設け、毎年100名ほどの学生が学業に励んでいる。今年度は更に准看護師のコースを1つ追加し、20名のブータン難民と20名のネパール人が入学した。AMDA病院の移転に伴い、将来的には二次医療施設としての機能も兼ね備えたネパール東部地域における中核センターを目指している。

### ◆HIVを含む性感染症予防啓発プロジェクト (1999年～現在)





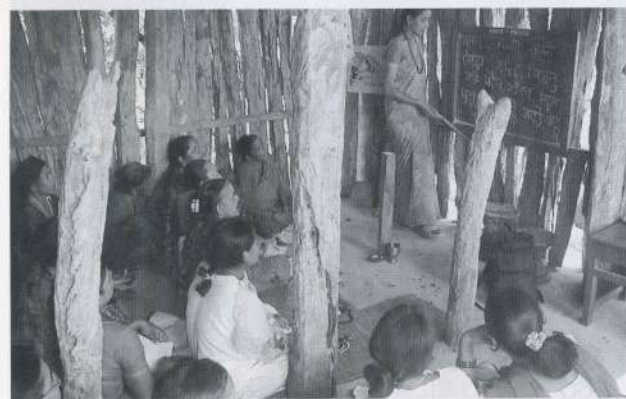
HIVおよび性感染症のハイリスク・グループ（性産業従事者やその顧客など）を対象として感染予防を推進するための啓発活動を実施している。ジャバ郡ダマック市に拠点を置き、近隣の5郡、特にネパールを東西に貫くハイウェイ沿いにドロップ・イン・センター（DIC）を開設し、HIVや性感染症の情報提供を行なっている。また、地元の有力者への働きかけや中学・高校生を対象とした弁論大会、街頭で演じるストリートドラマなど多様な活動を通じて意識啓発を図っている。本事業は、米政府国際開発援助庁（USAID）からの資金提供を受け、米国NGOであるファミリー・ヘルス・インターナショナル（FHI）と連携し実施している。

◆性感染症ケア・サービスプロジェクト  
（2001年～現在）



ネパールの中部地域マクワンプル郡ヘタウダ市に拠点を置き、ネパールを東西に貫くマヘンドラ・ハイウェイ沿いの16郡で活動を展開している。前述のHIVを含む性感染症予防啓発プロジェクトや他のNGOとの連携をはかり、ハイウェイ沿いのDICに3つの巡回チーム（医師、検査技師、看護師、薬剤師など）を派遣し、HIV及び性感染症に関連してケアの必要な人々を対象に、性感染症の検査や対症療法の提供、薬剤の販売などを行っている。本事業はUSAIDとFHIからの支援を受け実施している。

◆地域保健衛生啓発プロジェクト  
（2000年～現在）



国連開発計画（UNDP）との連携を通じ、ルパンデヒ郡内の農村地域の女性と子供を対象に、保健衛生教育、識字教育、母子保健教育、学校保健教育といった啓発活動を実施している。本事業は、自身の健康に対する知識及び意識を高め、自助努力による生活環境改善を図ることにより、母子保健の改善を目指

している。仲間（ピア）意識をベースに、女性と子供の効果的な学習を促している。今年度は、フェリシモ地球村の基金を活用させて頂き、住民による自主活動を促進するためのコミュニティーセンターの設立も進めている。

◆知的障がい児デイ・ケア・センター支援  
（1997年～現在）



1997年夏にネパールを訪問し、障がい児学校の現状を目の当たりにしたAMDA高校生会メンバーの自発的かつ献身的な行動を契機に支援が開始された。国内における募金活動を通じて集められた資金は、障がい児学校の新校舎建設の一部に活用され、またプトワール市近郊の知的障がい者に対する社会的差別や偏見を軽減するための啓発活動に充当された。更に、昨年度からは学校に来ることができない障がい児のための「在宅訪問教育プログラム（Home Visit Program）」が開始され、今年度は支援を拡大していく。

◆人材育成活動

（篠原奨学基金、1998年～現在）（ヒロ・モリ奨学基金、2001年～現在）



篠原奨学基金は、ネパール過疎地域の保健医療の向上に尽力された故・篠原明医師の生前の志を受け継ぎ設立され、医療施設で働くAMDAの医療従事者に対して授与している。一昨年度奨学基金を受けたサンタ看護師は、カトマンズの大学で看護学を学び、子ども病院に復職し活躍している。一方ヒロ・モリ奨学基金は、元高校教師であった森ひろ氏より、「開発途上の貧しい女性の地位向上に役立てて欲しい」とご寄付を頂き設立された。カーストが低く貧しい家庭の出身であっても勉強の機会が提供されるよう、AMDA保健人材育成センターに入学を果たした学生のうち、カーストの低い女子生徒に授与されている。2003年度からは新たに野田都氏からもご寄付を受け、現在3名が学業に励んでいる。

## ベトナム

## ◆イエンチョウ郡公衆衛生改善支援プロジェクト (2004年3月～現在)



ベトナム北部山岳地帯に位置するソンラー省イエンチョウ郡が、本事業の対象地域である。同地域では安全な飲料水の不足、家庭に衛生設備が普及していないこと等から感染症が問題となっている。同地に住む約60%の住民が、地面に穴を掘っただけの場所へ、もしくは直接河川へし尿を流している。また、約50%の住民が、同じ河川から生活用水・飲料水を汲んでいる。本事業では、1)水供給システムの建設、2)衛生設備の設置、3)公衆衛生講習、4)モデル植林という4つの活動を通じ、現地住民の参加と自立を念頭に置いた環境衛生向上支援を実施している。本事業は日本国外務省、フェリシモ地球村の基金からの支援を受け実施している。

## ◆タンザンコミュン保健医療サービス向上支援プロジェクト (2004年3月～現在)



本事業対象地である北部山岳地帯に位置するホアビン省ダーバック郡タンザンコミュンでは、山岳地帯特有の地理的悪条件の為、住民は基礎保健医療サービスを受けることが困難な状況に置かれている。本事業では、1)ヘルスポストの建設、2)ヘルスポストへの医療機材・医薬品等の供与、3)保健医療・マネージメントトレーニング、4)モデル伝統薬草菜園設置など、4つの活動を通じ、現地住民の参加と自立を念頭に置いた保健医療サービスの向上支援を実施している。本事業は、日本国外務省、フェリシモ地球村の基金からの支援を受け実施している。

## パキスタン

2001年10月の米英軍によるアフガニスタンへの空爆開始直後より、アフガン難民支援活動を開始。パキスタン・クエッタ近郊のアフガン新難民キャンプにおいて保健医療支援を実施。アフガン難民が健康を保ち、無事に帰還できるよう応援してきた。2004年3月、UNHCR主導で開始されたアフガン難民帰還事業の成果により、パロチスタン州内に6ヶ所あった新難民キャンプは閉鎖、約5万人のアフガン難民が無事母国へ帰還した。

## ◆自主帰還センターでの診療・保健衛生教育活動 (2004年3月～現在)



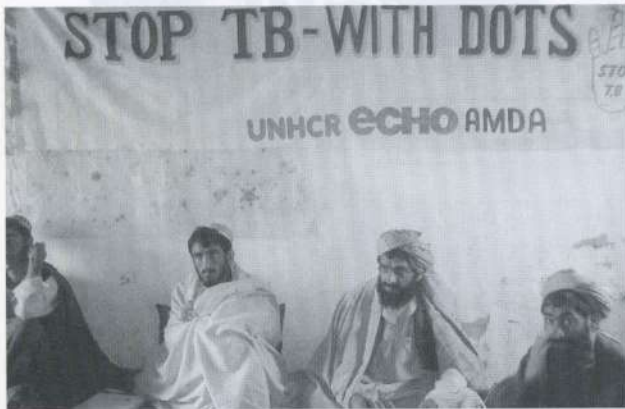
2004年3月から国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 主導で開始されたアフガン難民帰還事業の一環として、パキスタン・クエッタ市郊外の自主帰還センター (VRC) 内にて診療所を運営。母国アフガニスタンへの帰還を控えた難民の健康診断、急症患者対応、帰還女性を対象とした保健衛生教育等を実施している。

## ◆レファラル・システム運営 (2002年6月～現在)



2001年9月以降に設置された新難民キャンプを中心に展開してきたレファラル・システムだが、難民の帰還が進み、新難民キャンプ閉鎖・統合により、活動の裨益対象者/地域を旧難民キャンプ約15ヶ所及び同州遠隔地域居住者に移行した。各地のキャンプ内診療所では診療が困難な重症患者、遠隔地のため治療が困難な地域住民を対象として、高次医療機関への搬送、療養生活を支援する同システムを引続き運営している。

◆結核予防・診療活動 (2003年8月～現在)



パキスタンにおける結核の罹患率は高く、政府主導による結核対策が進められてきた一方、これまで難民に対しては十分な対策がとられていなかったことを鑑み、AMDAはパロチスタン州内15ヶ所の旧難民キャンプにおいて結核予防診療をすすめている。感染予防教育者の早期発見、安心して治療に取り組める療養生活の支援、また着実な投薬指導といった予防診療体制を整備し、対策に取り組んでいる。

バングラデシュ

◆マイクロクレジットプロジェクト



首都ダッカの南約30kmにある農村のガザリア郡において、主に貧困世帯の女性を対象に小規模融資(マイクロクレジット)を行い、貧困削減と女性の経済的な自立を促すことを目的に活動を実施している。そのため、単に融資を行うだけでなく、女性のビジネス・スキルや教育レベルの向上、受益者の世帯の保健医療に係る支出の減少などを目指した活動を行っている。昨年度は20名の成人女性を対象にした識字教育を行い、また、意欲のある女性を対象に、起業のためのワークショップなどを実施した。現在2,000名余りのメンバーがマイクロクレジットプロジェクトに参加している。

◆保健衛生プロジェクト



ガザリア郡の診療所での医療活動に加え、ヘルスワーカーがフィールドでの保健活動を行っている。マイクロクレジットの集会や、母親を対象としたフォーラム、思春期の女性を対象としたフォーラム、それに家庭訪問で、安全なお産、急性呼吸器感染症、水、など毎月テーマを決めて保健衛生教育を実施。視聴覚教材を使用した保健衛生教育も実施した。昨年度は母親を対象とした栄養のためのワークショップも開催した。社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金の助成を受け、下痢症改善のための保健衛生教育とトイレ建設支援事業を実施した。

◆職業訓練プロジェクト



電気・溶接・コンピューター・木工・手芸・洋裁の6つのコースに加え、国際労働機関 (ILO) / 国連開発計画 (UNDP)、バングラデシュ国政府と協力し、特に貧困女性を対象とした職業訓練を実施している。昨年度からは、特定医療法人徳洲会の寄贈による発電機で、夜間のコンピュータークラスも開講することができるようになった



株式会社 道徳神  
The Travelers Guardian Inc.

〒108-0014 東京都港区芝5-13-18 MTCビル9階  
TEL: 03-3455-6111 FAX: 03-3455-2442  
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービス PLAZA3階  
TEL: 06-6343-7725 FAX: 06-6343-6328  
ホームページ: <http://www.dososhin.com>  
メールアドレス: [info@dososhin.com](mailto:info@dososhin.com)

## スリランカ

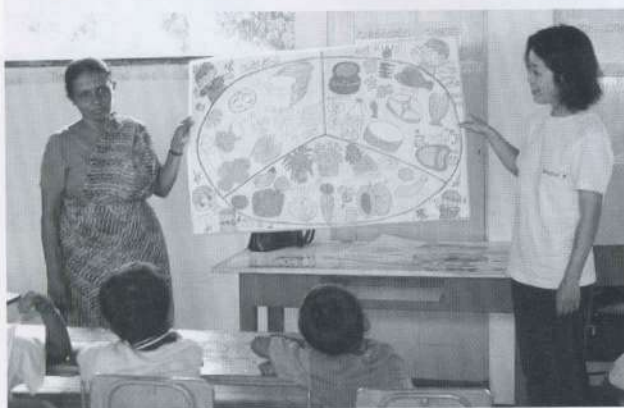
### ◆ワウニア県基礎保健サービス復興支援事業 (2004年5月～現在)



JICA 草の根パートナー事業の2年目を実施中。人口14万人を抱えるワウニア県では、内戦後の復興が進みつつある半面、地域の保健サービスの回復は遅れている。そのため、市内中心部にある総合病院への患者の一極集中はまだ解決されておらず、周辺地域の保健施設機能の早期回復が急がれている。当事業は、地域（フィールド）助産師に対する研修と、保健ボランティアに対する保健衛生教育を通じた基礎サービスの復興を目指す傍ら、一部産科棟の建設や医療機材の供給など、ハード面における支援も行なっている。2005年5月現在、病棟は8割方完成し、医療機材もほとんどが供与済みである。また、10回にわたる研修を受けた助産師が講師となり、保健ボランティアへの教育訓練コースが現在進行中である。

### ◆スリランカ医療和平プロジェクト

(2003年2月～現在)



スリランカ医療和平プロジェクトは、2003年の2月から始まった。これまで、スリランカの北部、南部、東部の3箇所において、巡回診療、巡回健康教育による保健医療サービスの提供、そしてタミル語、シンハラ語、英語の3言語併記の「AMDA健康新聞」の発行を行ない、スリランカの平和構築に寄与し、地元の人々の信頼を得てきた。この実績に基づき、昨年12月31日の北東部津波緊急救援対策会議では、感染症予防のための県内全域での健康教育を日本からの唯一の参加団体であるAMDAが一任されることが決定され、避難所や小学校で実施してきた。また、このことは地元の人々が自主的に健康教育活動を実施継続できる枠組み作りを促進させた。レントゲン技師および健康教育ボランティアスタッフ等の人材育成も進んでいる。

## AMDA プロジェクト アフリカ

### ケニア

### ◆保健医療改善プログラム (HIV/エイズ対策) (2003年1月～現在)



首都ナイロビのキベラスラムで蔓延するHIV/エイズ対策の一環として、2003年1月からVCT（自発的カウンセリングとHIV検査）センターを運営している。同センターでは国家資格を持つカウンセラーによるHIV検査と検査前後のカウンセリングサービスを無料で提供している。現在、ひと月に60～70名の住民がセンターを訪れている。過去1年間の訪問者数は711名（男性：428名、女性：283名）である。訪問者総数を分母とした感染率は平均10%。しかしそのうち男性の感染率は約7%、女性は約16%と、女性の感染率が高く、また年齢別では男女とも20才代の感染率が最も高い。さらに、他の国際・ローカルNGOや政府機関と連携し、HIV感染者・エイズ患者に対する精神的・身体的なケア・サポート提供にも力を入れている。今後はスラム内の教会と協体制を結び、より多くの住民が自分自身の感染の有無を知り、その後のサポートを適切に受けられるよう支援していきたい。本事業は、フェリシモ地球村の基金からの支援を受け実施している。

### ◆初等教育・衛生環境改善プログラム

(2005年2月～現在)



政府の手が届きにくいキベラスラムでは、60～70%にあたる子どもが、一般初等教育の全過程を終了する機会に恵まれていないと言われている。著しく老朽化した教育施設と教育施設内外の劣悪な衛生環境を改善し、できるだけ多くの児童が快適で安全な教育機会を享受できるように、日本国外務省（NGO支援無償資金協力）の支援を得て、2005年2月からプロジェクトを開始している。学校施設の増改築とトイレや給水施設の整備とともに、感染症の原因でもある廃棄物や糞尿が散乱放置されている劣悪な周辺環境の清掃活動が継続的に実施されるよう、住民に対する啓発活動も実施している。

## ジブチ

### ◆ソマリア・エチオピア難民支援プロジェクト (1992年～現在)



アリアデ、ホルホル両難民キャンプに加え、2003年8月からは、アラウサ難民キャンプにおいても、ソマリア・エチオピア難民を対象とした保健医療分野の支援活動を続けている。3つのキャンプの診療所に医師2名(ネパールおよびバングラデシュ国籍)、看護師、薬剤師、コミュニティヘルスワーカーなど約50名を配置し、診療所での診察、母子保健(分娩介助、妊産婦健診、避妊対策普及、乳幼児成長発達観察)、予防接種、栄養改善プログラム(WFP、UNHCRの食料提供を受け、栄養失調ぎみの乳幼児や母親へ食糧を提供)、保健衛生教育(保健衛生、HIV/AIDS、女性の割礼、ジェンダー意識向上)、環境衛生事業(トイレ建設、環境美化運動)など、2万人を越す難民を対象に実施している。

### ◆難民帰還プログラム (2002年～現在)

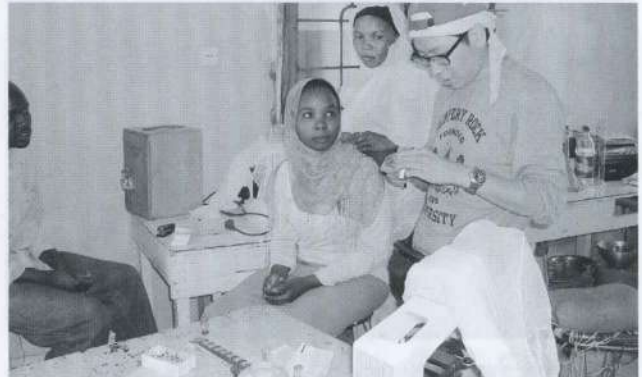
ソマリアの政情や治安が安定してきたことに伴い、難民帰還プログラムが実施されている。通常、帰還を希望する難民家族が100名以上集められ登録された後、ジブチ市近郊のトランジット・キャンプに送られる。そこでUNHCRの規定に基づき、各家族に、健康診断のほか、食料、現金、衣類や毛布などの物資の支給が行われ、数日以内に



飛行機で本国へ送還される。このプログラムに関連してAMDAは、トランジット・キャンプに医師や看護師を派遣し、帰還難民の健康診断を行っている。昨年2004年の裨益人口は約9,000人、2005年は、6月までにアラウサ難民キャンプの閉鎖、年内にホルホル難民キャンプの閉鎖が予定されており、それに伴う裨益人口は約1万人と見込まれる。

## スーダン

### ◆南ダルフール医療システム再建プロジェクト (2004年10月～現在)



2003年2月スーダン政府と反対勢力との間で発生した衝突(所謂「ダルフール危機」)により、ダルフール地方全体で約160万人が家を追われ、過酷な環境下での生活を強いられている。日本国外務省及び在スーダン日本大使館からの支援(日本NGO支援無償資金協力)により、2005年1月から南ダルフール州立病院における緊急支援事業として、人材育成プロジェクトを開始している。ダルフール危機以後、チャラ市周辺には生活の場を求める国内避難民が集中した事を主因に、同病院にも1日平均400名が受診に訪れる。困窮する外来診療部門の特に外来検査室を支援すべく、検査機材・研修プログラム・情報管理システムを導入し、チャラ市人口約20万人及び周辺国内避難民25万人を網羅できる体制構築に寄与する計画である。

## ザンビア

### ◆コミュニティ農園プロジェクト (1999年12月～現在)



首都ルサカ市のジョージ地区(人口約12万人)において、ルサカ市当局から土地の提供を受け、2.8haの農園を運営している。栄養価の高い大豆を栽培し、収穫された作物は地区内のヘルスセンターなどを通じ、栄養不良児や結核患者などに供給されている。また、収入向上をめざしてトマト、キャベツなどの野菜を栽培する他、小規模の養鶏場も運営し、その利益は農園の他、コミュニティ・スクールや結核対策事業の活動資金としても活用されている。灌漑設備を導入した結果、乾季の栽培も可能になったため、農園から安定した収入が期待でき、サステナビリティ(持続性)を確保するための条件が揃った。

## ザンビアつづき

### ◆コミュニティ・スクールおよび職業訓練プロジェクト (1998年～現在)



学校の卒業資格や職業技術を身につけることで就業機会を増やすという、貧困削減の一環として行っている。コミュニティ・スクールでは主になんらかの理由で学校に通えない子どもたちを対象に1日に2つのクラスに分けて語学(英語・ナンジャ語)・算数・理科などの授業を行っている。職業訓練はミシンを使った裁縫教室を行っている。卒業後の自立を支援するため、ビジネス運営、会計などの授業も行われている。現在、合わせて約80名の生徒が学んでいる。また裁縫教室の優秀な卒業生を雇用し、裁縫ビジネスも開始した。

### ◆ヘルスポスト建設及び結核対策プロジェクト (2003年4月～現在)



日本国外務省の支援(日本NGO支援無償資金協力)により、2004年度ジョージ地区において2つのヘルスポストを建設、ルサカ市保健局の管轄下活動を開始した。同地区は12万人の人口を抱えているが、保健施設であるヘルスセンターが1ヶ所あるだけに過ぎない。ヘルスポストの新設により、住民の保健サービスへのアクセスが改善された。また、同ポストは、結核患者を対象とした治療プログラム(DOTS = Directly Observed Treatment Short Course)を展開する上で戦略拠点となるよう期待されている。現在、保健局当局と連携しつつ、住民の代表であるボランティアが患者宅へ訪問し患者の服薬を確認している。保健ボランティアは、地域内に見られる結核に対する偏見を軽減し、感染を防止するために、劇・歌などを通じた啓蒙教育も行っている。同結核対策事業はJICAとの連携を通じて、2005年7月から草の根パートナー事業として、人口15万人以上を抱えるカニヤマ地区へも拡充される予定である。

## AMDA プロジェクト

## 中南米

### ホンジュラス

### ◆青少年育成・エイズ予防教育プロジェクト



首都テグシガルバ市において、小中学校生徒、教師を対象に青少年育成プログラム及びエイズ予防教育を行っている。青少年育成プログラムでは、性教育とともに、個人の価値観の創造と向上、将来の展望を含めた教育プログラムを実施している。さらに、“Jóvenes Salvando Jóvenes”[「若者が若者を救う」と題して青少年リーダー育成を行い、彼らが同世代の若者に対し、性、エイズ予防に関する情報を正しく伝えることができるようにセミナーを開催している。また、エイズ予防啓発活動の一環として、世界エイズデーや同国の青少年週間には、キャンペーンを行い、エイズ予防を呼びかけている。本事業は、国際ボランティア貯金、フェリシモ地球村の基金、AMDA鎌倉クラブ、世界エイズ・結核・マラリア対策基金からの支援を受け実施している。

### ◆コミュニティ薬局運営支援プロジェクト



ニカラグア国境沿いの農村地域トロヘス市の20村落とテグシガルバ市内貧困層居住地域2ヶ所において、コミュニティ薬

局の運営支援を行っている。コミュニティ薬局は、教育を受けたヘルスボランティアが、低価格で薬品を販売するシステムである。AMDAはいわばその仲介的役割を果たし、ボランティアが安価で効率的に薬品を購入できるように、供給ルートの確保に努めている。現在、コミュニティ薬局は自立運営に向けて、ボランティアが中心となり、コミュニティ薬局運営委員会を組織している。運営委員会は、各コミュニティ薬局を訪問し問題の解決や、住民会議に参加し、住民への理解と宣伝活動を行っている。

### ◆妊娠適齢期女性及び伝統的助産婦育成プロジェクト

2005年4月から始まった新しいプロジェクトで、在ホンジュラス日本国大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、トロヘス市内20村落において、妊娠適齢期の女性に対して、リプロダクティブヘルス、妊娠についての教育を行うとともに、伝統的助産婦の育成を行う。また、ヘルスボランティアの協力を得て、妊婦が適切な検診を受けられる体制を整え、安全な出産を促し、望まない妊娠の予防活動を支援する。

### ◆地域農林業振興プロジェクト



2002年より国際農林業協力・交流協会（JAICAF）の支援を受けて実施されてきた本事業は、トロヘス市において農林業の促進と、住民の生活・栄養改善を目的とし、野菜栽培、植林を実践しながら有機栽培、病害虫対策、土壌保全などの技術指導を行っている。また、栄養改善を目的とした活動は、家庭菜園を導入することにより、各家庭で野菜を摂取することを奨励してきた。さらに、森林破壊が進んでいるこの地域において、住民が、薪の消費量削減を目的とした省エネかまどを積極的に取り入れてくれるよう様々な支援を行なっている。



## ペルー

### ◆青少年のリプロダクティブヘルス教育プロジェクト



首都リマ市において、公立学校（小・中・高）の生徒及び教員を対象に、リプロダクティブヘルスに関する青少年の理解の向上と行動変容に寄与するため、ワークショップを実施している。そのプログラムの内容は、正しい身体ケア、性感染症や性的虐待などの危険から身を守る方法、子どもの身体的・社会的成長を促す仕組みや方法論などである。生徒が関心を持続させつつ理解を深めてもらえるよう、ゲームなどを通じて楽しみながら学べる内容となっている。これまで蓄積された活動経験を体系化し、ワークショップの手法を確立している。本事業は、味の素クリック募金やジャスコ岡山店などからの支援を受け実施している。

## ボリビア

### ◆救急救命医（士）研修プログラム



1997年以来、同国の一般医を対象に、外傷に対する初期治療技術の向上を図る研修プログラム（ATLS：Advanced Trauma Life Support）を実施し、救急救命医を養成している。この研修は、初期評価と治療、気道確保、気管内挿管などを、講義だけでなく動物を使った模擬手術やダミーを使った実習で学ぶ実践的な内容で、米国外科学会の認定プログラムである。さらに、2001年3月からは、救急車の同乗員、消防士、警察官、一般市民などを対象とした研修プログラム（PHTLS：Pre Hospital Trauma Life Support）を実施している。このプログラムでは、事故現場における外傷患者の固定・搬出方法などを中心に研修する。2つの研修を実施することにより、事故現場から病院内まで、外傷患者に対する一貫した初期対応ケア・治療技術の向上に寄与できる。

国内防災訓練参加



防災の日9月1日には、毎年、防災訓練に参加しています。AMDAでは頻発する国内での自然災害への対策として、国内での防災訓練を通じた更なるネットワークの構築と強化、また実災害時に活用できる防災システムの形成を目指します。



AMDA「ERネットワーク日本」ご登録のご案内

AMDAは設立以来20年、自然災害、紛争等による被災者（難民）に対応するため、緊急救援活動を実施してきました。より迅速な初動体制を確立するため、登録制度「ERネットワーク日本」を整備致しました。

緊急救援活動派遣を希望される方は、「ERネットワーク日本」にご登録下さい。なお、ご登録者には緊急救援初動の際にお声をかけさせていただきますが、登録により活動参加義務が発生することはありません。

登録に関するお問い合わせ先：  
特定非営利活動法人アムダ  
緊急救援事業部  
〒701-1202 岡山市橋津310-1  
TEL：086-284-7730

# 県人会ネットワーク活用を

## 救える命があれば どんなにでも

□4□

菅波 茂



第二回沖縄平和賞を頂いた時のAMDAとしての公約を実行する時期が来た。「沖縄から世界平和への貢献」を実現するために、第一段階はAMDA沖縄支部の強化である。沖縄発の人道支援活動をさらに展開できるよう、スタッフの増員を検討している。

## 中南米に三つの提案

ら派遣されたAMDA多国籍医師団による被災者救援活動である。当時、AMDAペルー支部長であるヤマニハ医師の友人がホンジュラスにペルー大使として赴任されていた。小児科医でもあるビクトル山本大使だった。私たちの救援物資は外交官特権で速やかに税関を通過させ、大使公邸を宿舎として提供していただいた。おかげで被災地で迅速に支援を開始することができた。ちなみに、ヤマニハ医師もビクトル山本大使も沖縄県系ペルー人である。ヤマニハ医師の子息（医師）が中心となって

## 沖縄発、平和貢献実現へ

療過疎の地域で「健康に関する知識の提供と薬の低額販売を通じて、コミュニティが自ら健康向上を担うこと」が目的である。個々の薬局は小規模であるが、生活ネットワークの要として機能する。



小規模ながら、地域で大きな役割を果たすコミュニティ薬局＝ホンジュラス（AMDA提供）

投資は安全で、住民の健康に対する意識向上は大きな意義がある。ホンジュラスでの成功モデルが他の国々に拡大していくのが楽しみである。さらに、わが国で蓄積された介護技術の移転が、中南米の高齢者にと

って福音になると期待したい。また逆に、ホンジュラスやペルーで実施している「エイズ予防教育」を日本の中高校生、教育関係者や医療従事者に紹介したところ、こちらも好評であった。三つ目の貢献である貧困に対する社会開発は、入るは易く出るのが難しい。基本的には国家の仕事である。政治とは「民を食へさせ、民の血を流さず」であるから、農業から小規模融資まで多様なメニューがあり、いずれも有用である。例えば、AMDAはホンジュラスにおいて、コミュニティレベルで持続可能な農林業を推進し、住民の生活向上を支援している。沖縄の人たちの観望に期待したい。

AMDA（アジア医師連絡協議会）理事長  
次回からは毎月第四日曜日に掲載します。





## NGO 相談員

外務省の NGO 活動環境整備支援事業のひとつとして、中国地区の NGO 相談員を務めました。電話や電子メールを通した毎日の相談に応じるとともに、中国5県の国際協力イベントや、日比谷で行われる国際協力フェスティバルに参加したりしながら、さまざまな方の相談に応じてきました。将来的に国際協力活動に携わりたいという希望を持つ個人の方からの相談が最も多いのですが、昨年度はNPO法人(特定非

営利活動法人)設立の手続き等について知りたいとおっしゃる方からのお問い合わせも何件いただきました。こうした方の相談は、既に個人や任意団体として国際協力活動を実践されていて、将来的な活動の基盤整備のために法人化を検討したいというものでした。法人化による大きなメリットのひとつが寄付者の税控除と考えられていますが、残念ながらNPO法人になるだけでは寄付控除の対象団体にはなれません。これは、NPO法人が「認証」という比較的手続きの簡単な制度を採用しているためなのです。つまり法人設立に関する手続きを簡単にして、市民活動を促進するねらいがあるからな

のです。その意図のとおり、法人化にはメリットも多いのですが、反面、事務処理が煩雑化するなどのデメリットもあります。任意団体として立派に、しかもメンバーのみなさんが楽しんで活動している団体もありますし、法人化により、さらに充実した活動を行ってられる団体も見ます。今後どうしようかと迷ってられる方は、どうぞ自分たちの活動の方向を良く吟味され、それに合っていれば法人化を検討なさってみてください。そのときにはどうぞ NGO 相談員へのご相談もお忘れなく。

※今年度の委嘱団体は6月頃外務省から発表される予定です。

## — 報告書できました —

昨年10月11日に岡山国際交流センターで行った HIV/エイズ AMDA 実践報告セミナー (AMDA ジャーナル 2004年11月号 P.13、12月号 P.22、で紹介)の報告書ができました。当日の講演内容等がご覧いただけます。日本の国際協力としての取り組み、身近な地域での保健所や若者の取り組みに加え、AMDAがこれまで中南米やアフリカ、アジアの各地で重ねてきた経験をこれからどのように日本の学校教育の中で生かしていくか、その長い歩みの初めの一歩が記されています。学校現場で実際にエイズ教育に携わってられる方、関心を持ってられるみなさん、どうぞご利用ください。

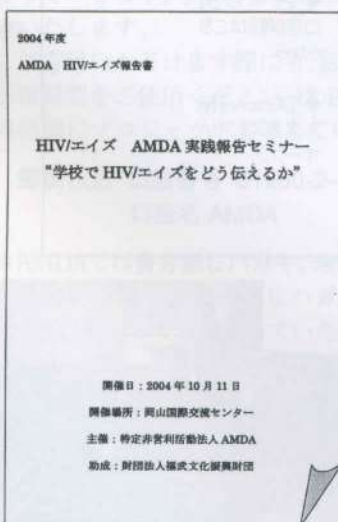
### ◇主な内容：

- § 国際理解教育とエイズ
- § AMDA の HIV/エイズ対策プロジェクトについて
- § JICA の HIV/AIDS 分野への取り組み
- § 岡山における HIV/AIDS と性感染症
- § 岡山における Youth の活動紹介
- § ホンジュラスで実施している HIV/エイズ予防教育の体験

※ご希望の方に、郵送料込み1000円でお分けします。

詳しいお申し込み方法などは、AMDA 広報室 奥谷

TEL : 086-284-7730 / E-mail : member@amda.or.jp にお問い合わせください。



**AMDA**

特定非営利活動法人アマダ

>> English

>> AMDAグループ

- ◆ コンテンツ
- ◆ インフォメーション
- ◆ プロジェクト
- ◆ お問い合わせ



**AMDAカフェ カンボジア&シブチ最新活動報告**

実際に現地で活動したスタッフの話を聞き、お茶を飲みながら交流できる絶好のチャンスです！ 定員60名ですのでお早めにお申し込み下さい。



チラシ



申し込み用紙

【左:カンボジア報告者 潮田裕美 右:シブチ報告者 吉田美希】

5月20日(金)午後6時30分～ 岡山国際交流センター5階 会議室(1) お問い合わせは下記まで

[member@amda.or.jp](mailto:member@amda.or.jp) TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959

**News**

◆ インタビュー AMDAカフェ カンボジアから帰国 潮田裕美編くくその他

◆ 環インド洋地震・津波の被害に対する多元3カ国緊急救援活動37 <<緊急救援活動より

不定期刊 AMDAからのお知らせ (マガジンID:0000125625)

メールアドレス:

登録 Powered by



— PR —

◆ 通常の10分の1で投資ができる【野村の株式ミニ投資】

◆ 【全日信販】A-J AMDAカードご利用金額の0.5%(A-J負担)をAMDA支援

◆ 【イーバンク】口座開設はこちらから

◆ 【Amazon】輸入文具ストアがオープン

**Menu**

- 1** AMDAとは
- AMDAとは
  - AMDAの歩み
  - AMDA講演録
  - AMDA Q&A
  - AMDAカフェ
  - NGO相談員

- 2** お問い合わせ
- 連絡先・アクセス
  - パネル貸し出し
  - 講演・講師依頼
  - 本部への訪問
  - 不定期刊メルマガ

- 3** ご支援のお願い
- AMDA入会案内
  - 支援方法の紹介
  - オンライン募金

- 4** インフォメーション
- イベント案内
  - 緊急救援速報
  - スタディツアー
  - 速報過去記事一覧

- 5** 派遣者募集
- 派遣者募集一覧

- 6** AMDAボランティア
- AMDA県支部・クラブ
  - AMDA高校生会

- 7** AMDA出版物案内
- 書籍
  - その他の書籍
  - 定期刊行物
  - その他の刊行物

- 8** AMDAプロジェクト
- 現在の活動
  - プロジェクト一覧
  - 緊急救援活動一覧
  - 外務省NGO事業補助金報告書

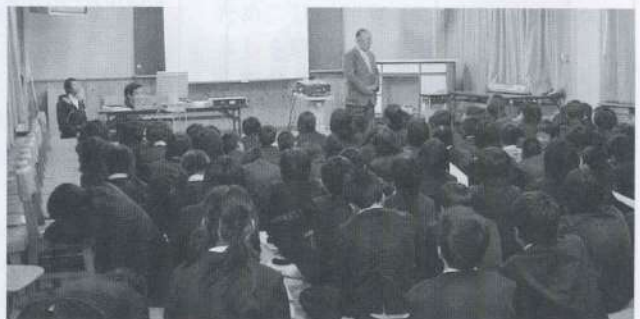
- Web版 月刊AMDA Journal
- 活動報告

- リンク集
- リンク集

- AMDA熱帯医学DB
- 熱帯医学データベース

**1** AMDAとは: AMDAがどういう理念をもって活動する国際医療NGOであるか等を紹介しています。

**2** お問い合わせ: AMDAでは活動パネルや活動紹介ビデオの貸し出しを行っています。また地域、学校、企業等での国際理解教育を目的とした講演会や授業へのご依頼、講師派遣もお受けしています。□パネル貸し出し、□講演・講師依頼より申込用紙をプリントアウトされ、ご記入のうえAMDAまでご送付ください。FAX (086-284-8959)



AMDAでは、AMDAメールマガジン-救える命があればどこへでも-を不定期に発行しています。ご希望の皆様は□不定期刊メルマガよりご登録をいただけます。

### 3

#### ご支援のお願い：□AMDAの入会案内

AMDAの活動を支えてくださるAMDA会員を募集しています。AMDAの活動へのご意見やご提案をいただくとともに、AMDAからは活動報告誌やイベントのご案内をお届けします。

AMDA会員	年会費	活動報告誌の送付
医師会員	15,000円	AMDAジャーナル（毎月）
一般会員	10,000円	同上
法人会員	30,000円	同上
学生会員	7,500円	同上
賛助会員	2,000円	AMDAダイジェスト（年2～3回）

入会ご希望の方は20Pの綴じ込み郵便払込取扱票をご使用になり、必要事項をご記入のうえ、ご入会の手続きをおとりください。

#### AMDAの活動へのご支援のお願い

今回のスマトラ沖地震・津波緊急救援活動の際には多くの皆様からのご支援をいただきインドネシア、スリランカ、インドの3カ国において医療救援活動を行うことができました。そして現在は復興支援活動を開始しようとしています。本当に有難うございました。

NGOであるAMDAの活動はご支援者の皆様からのご寄附により支えられています。ご寄附により予期できない災害への緊急救援活動のみならず、中長期的に継続している社会開発事業も本号で紹介いたしましたとおり、アジア、アフリカ、中南米15カ国において実施することができております。

AMDAでは今後も平和を妨げる戦争、災害、そして貧困に苦しめられている人々への医療支援を行っていきます。今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

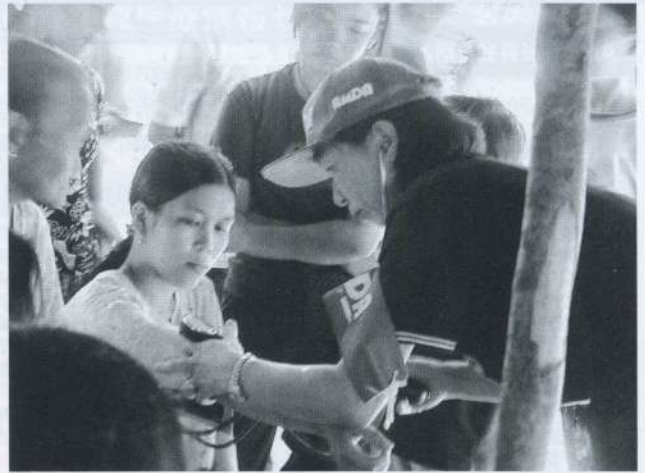
ご寄附いただけます際にも、綴じ込みの郵便払込取扱票をご使用ください。特定寄附の場合には連絡欄にプロジェクト名等をご明記ください。

郵便払込 口座番号 01250-2-40709  
口座名 AMDA

※AMDAでは書き損じハガキ、未使用ハガキ・切手を集めています。書き損じハガキは切手と交換し、通信費として活用させていただいております。

### 4

インフォメーション：AMDAが開催する□イベントや□スタディツアー等をお知らせしています。特に海外事業派遣者が帰国した時など、派遣者による活動報告会（AMDAカフェ：AMDA会員は無料、非会員は500円）を開催し、事業の進捗状況など報告しています。現地の飲み物など飲んでいただきながら、ビデオや写真での活動紹介を交えた分かりやすく、楽しい雰囲気の報告会です。お近くの皆様は是非ご参加下さい。



### 5

派遣者募集：AMDAプロジェクト派遣者募集のお知らせをしています。

※また、AMDAでは派遣者（医療関係者、調整員）登録制度があります。AMDA緊急救援活動の際に派遣者として現地での活動を希望される皆様に登録していただいています。ご登録の皆様にはAMDAより声を掛けさせていただきますが、登録により参加義務が発生することはありません。

※AMDA本部（岡山市）での事務補助やイベント補助を行って下さるボランティア登録も併せてお願いしています。ボランティア活動の内容は多岐に渡っていますが、あらかじめご希望の登録をしていただき、活動に合わせてAMDAから連絡させていただきます。ボランティア登録は、直接AMDAに来ていただくか、電話（086-284-7730）にて受け付けています。

### 6

AMDAボランティア：協力団体であるAMDA県支部やクラブがあります。（AMDA神奈川・AMDA兵庫・AMDA沖縄・AMDA鎌倉クラブ・AMDA高校生会）それぞれの活動を紹介しています。

□AMDA高校生会は岡山県在住の高校生によるボランティア会です。AMDA事業の支援活動（2005年度はスリランカ医療和平プロジェクトの中の巡回健康教育プログラムを支援）を主とし、国際理解研修会やイベント参加、募金活動等を行っています。2005年度新メンバーを募集中です。（お問い合わせはAMDA難波まで）

### 7

AMDA出版物案内：AMDA関係の刊行物を紹介しています。（本誌20P）参照

### 8

AMDAプロジェクト：AMDAが現在実施している社会開発プロジェクトと、今までに実施してきた社会開発プロジェクトを国別に紹介しています。また緊急救援活動一覧表を掲載しています。

## AMDA 関係 刊行物のご案内

- ・お問い合わせは、AMDA 本部事務局まで。  
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
- ・お申し込みは、郵送かFAXでお願いします。
- ・お支払いは、郵便振替でお願いします。送料別。  
口座 AMDA 出版 口座番号 01220-6-12076

### AMDA の提言

—人道援助の世界都市—

岡山から世界に飛び出し、国際的な医療NGOとして知られるAMDA。その代表の著者が問いかけ、提案する。「日本は経済大国から、人道援助大国をめざせ。岡山に世界へ向けての人道援助ネットワークの拠点を築こう」と。

256頁  
ISBN4-88197-607-9 C0036 P1600E

- ・菅波 茂著
- ・出版元 山陽新聞社
- ・1996年11月25日発行



定価 1,680円

### AMDA 緊急救援 出動せよ!

—緊急救援10年の軌跡—

国境を越えた緊急医療活動で世界的に知られるまでになった国連NGO・AMDA。10年間に15回以上の緊急救援活動に参加した三宅和久医師が、現場で直面し、感じた人道援助の実際。1冊購入につき100円がAMDAに寄付されます。235頁

ISBN4-86069-027-3 C0095

- ・三宅和久 著
- ・出版元 吉備人出版
- ・2003年2月14日発行



定価 1,470円

### 医療和平

—多国籍医師団アムダの人道支援—

21世紀を生きる子ども達の命を救いたい! AMDAは北部同盟とタリバンの保健担当者を岡山に招聘。AMDAのアフガニスタン国内医療和平構想に両者は快諾し協力を約束してくれたが…救える命があればどこへでも行くAMDAの緊急救援活動と危機管理。225頁

ISBN4-08-78 1262-6 P1500E

- ・菅波 茂著
- ・出版元 集英社
- ・2002年5月2日発行



定価 1,575円

### 遥なる夢

—国際医療貢献と  
地域おこし—

AMDA設立までの経過と活動記録。AMDAに関わった人々について紹介すると共にAMDAの展望と日本のNGO活動への提言。

316頁

- ・菅波 茂著
- ・出版元 AMDA
- ・1993年9月20日発行



定価 500円

### ルワンダからの証言

—難民救援医療活動レポート—

援助大国とはいえ、国際的なNGOに比べると組織は小さく財政的にも弱い日本のNGOが、劣悪な環境の中でルワンダ難民のために活動した記録。

200頁

ISBN 4-521-00541 C0030 P2000E

- ・AMDA 著
- ・出版元 中山書店
- ・1995年4月3日発行



定価 2,100円

### はばたけ! NGO・NPO

—世界の笑顔にあいたくて—

自然災害・難民救済・環境破壊・高齢者福祉など様々なボランティア活動は国内だけでなく国際的な広がりが求められています。広島県と共同開催の第一回NGOカレッジの講義録で、国際ボランティアを志す人に必携の書。328頁

ISBN4-88517-263-2 C1030 P1800E

- ・ひろしま国際センター編
- ・出版元 中国新聞社
- ・1998年3月25日発行



定価 1,890円

### とびだせ! AMDA

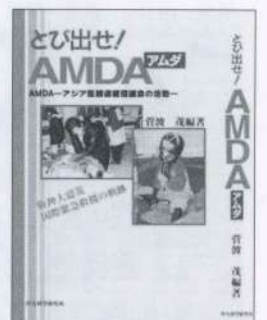
—AMDA・アジア医師  
連絡協議会の活動—

第1部 阪神大震災におけるAMDA医療ボランティアの動き。緊急救援活動における後方支援体制。防災への提言。

第2部 国際緊急救援での活動記録。バングラデシュ、ネパール、カンボジアやルワンダ、ソマリアなどの紛争地区での難民救援活動の記録。270頁

ISBN 4-905690 21-8 P1800E

- ・菅波 茂著
- ・出版元 厚生科学研究所
- ・1995年7月15日発行



定価 1,890円

# AMDA国内の活動



← イベント参加  
ボランティアのみなさんによる事務作業



← セミナー開催  
AMDAカフェ(報告会)開催



← AMDA高校生会による街頭募金  
AMDAスタディツアー開催



← AMDA支援のチャリティイベント  
ASMP開催





Bangladesh: フィールドへの道



みなさんのちからを  
必要とする人たちがいます